

平成28年第12回花巻市教育委員会議（定例会）議事録

1. 開催日時

開会 平成28年11月25日（金） 午後1時00分

閉会 平成28年11月25日（金） 午後1時55分

2. 開催場所

花巻市役所本庁舎本館3階 小会議室

3. 出席委員（5名）

委員 照井 善耕（委員長）

委員 中村 弘樹

委員 役重 眞喜子

委員 伊藤 明子

委員 佐藤 勝（教育長）

4. 説明のため出席した職員

教育部長 市村 律

教育企画課長 岩間 裕子

小中学校課長 沼田 弘二

こども課長 高橋 靖

文化財課長 酒井 宗孝

5. 書記

教育企画課 課長補佐 佐々木英智 係長 小原正吾

上席主任 佐々木晶子（書記）

○照井善耕委員長 只今から、平成28年第12回花巻市教育委員会議定例会を開会いたします。会議の日時、平成28年11月25日、午後1時、会議の場所、花巻市役所本庁舎本館3階小会議室。日程第1、会期の決定であります。本日一日とすることにご異議ありませんか。異議なしと認め、本日一日と決定いたします。

日程第2、報告事項に入ります。事務局から報告をお願いします。沼田小中学校課長。

○沼田弘二小中学校課長 今月行われました平成28年度岩手県中学校新人大会後期の結果についてご報告いたします。資料No.1をご覧ください。資料に沿って上位入賞を抜粋してお話したいと思います。

バレーボール男子団体は宮野目中学校が2位、女子団体は湯本中学校と南城中学校が3位です。

ハンドボール女子は花巻中学校が1位、2年連続4度目でございます。また、花巻北中学校は3位です。

バドミントン競技は、男子個人シングルスで石鳥谷中学校の長谷川君が1位です。バドミントン女子団体は湯口中学校在1位、そのほか、東和中学校が2位、矢沢中学校が3位と花巻勢が1位から3位までを占めております。女子個人ダブルスは南城中学校の高橋さんと伊藤さんが3位、東和中学校の佐藤さんと清水さんが3位となっております。

続いて卓球男子団体は石鳥谷中学校が2位、女子団体は花巻中学校が2位、女子個人では花巻中学校の中里さんが2位となっております。

柔道競技、男子個人50kg級は花巻中学校の藤原君が3位。個人60kg級では東和中学校の小田君が1位。個人66kg級は東和中学校の吉田君が3位、個人90kg級は石鳥谷中学校の鎌田君が3位です。柔道女子団体は、東和中学校が3位です。女子個人40kg級で東和中学校の酒匂さんが3位。個人52kg級は東和中学校の川村さんが3位。個人63kg級は東和中学校の菊池さんが1位となっております。

剣道男子団体は花巻中学校が2位です。剣道女子団体は花巻中学校が1位、2年連続9度目となっております。剣道女子個人は、花巻中学校の山口さんが1位、花巻中学校の継枝さんが2位、花巻中学校の下新田さんが3位となっております。

2ページ目に平成28年度岩手県中学校新人大会の花巻地区から出場したチームの結果を前期と合わせましてまとめて書いておりますが、団体の優勝が3、準優勝が7、第3位が6となっております。個人では、優勝が6、準優勝が4、第3位が9となっております。また、練習を重ねて来年度に向けて頑張っているところです。以上で報告を終わります。

○照井善耕委員長 ありがとうございます。只今の報告について何かご質問等ございましたらお願いいたします。

無ければ私からひとつ。花巻の場合、このように子ども達が活躍していると思うのですが、部活の指導上で話題になっていることはございますか。沼田小中学校課長。

○沼田弘二小中学校課長 今回の新人戦には限らないのですが、年々大会参加者、選手、応援も含めてマナーの向上ということは言われております。特に試合中、接戦になりますと大きな声が出てくるわけですが、相手を非難したり、ミスを喜んだりするのではなく自分の味方のチームを称えるような応援に変わってきておりますし、チーム監督の声掛けも適切になってきていると聞いております。

○照井善耕委員長 私もいろんな会場を見て回ったのですが、体育館の壁にマナーアップの紙が貼っているんですね。勝敗だけではなくて子ども達の良さを皆で見てもいいんじゃないかと、ペットボトルで手すりなどを叩いて応援することはやめまじょうとかね。ちょっとしたことなだけで具体的なことがその都度変わっている。去年までなかったものが今年には出ているとか。だんだんアップしていることを感じてすごく良いことだなと思っていました。

周りの方々と話すと、子ども達が大会を通して学校や市町村を超えて交流することが良い刺激となっていて、スポーツだけでなく学習にも結び付いているという話もあつたりして、頑張っていることが色々な方面に発揮しているんだなと感じました。

他に皆さんからはないですか。なければ、只今の報告については終わりといたします。

それでは、次の報告事項をお願いいたします。岩間教育企画課長。

○岩間裕子教育企画課長 それでは、前回の教育委員会議でご説明させていただきました、未来創造知恵出し会議について第1回目が終わりましたので概要についてご報告をさせていただきますと思います。

最初に資料No.2の3ページをご覧くださいと思います。出席者の状況でございます。全体で121名の皆様にご参加いただきましてさまざまご意見をいただきました。中心となりました年代は30代、40代で市の会議の中では比較的若い方々からの意見をたくさんいただけたのかなと思っております。あと、前回懸案ということで申し上げておりました開催予定時間についてアンケートを取らせていただきましたが、結果としては平日の午後、もしくは、指定しませんというご意見が最も多かったので、次回以降も早めの連絡で平日の午後ということで計画をしたいと思っております。参加者の満足度といたしましては、十分話せた方が34.7%、まあまあ話せた方が62.8%と満足度としては高かったのかなと思っております。

出された意見をまとめておりますので1ページ目をご覧くださいと思います。ワークショップでは1つ目の対話の項目として、学校で誇りに思うこと、逆に、残念に思うことを皆さんにお話しをさせていただきました。誇りに思うことで共通のキーワードとして出てきましたのが、子ども達は挨拶をよくしているということでしたし、宮沢賢治や郷土芸能の取組が良いんじゃないかというご意見がありました。それから、長い歴史を有している学校があることが良いんじゃないかということがありましたし、スポーツ頑張っているというお話がございました。逆に、残念に思うことで多く挙がってきたのが、学校からの情報提供がもっとあってもいいんじゃないかということでございましたし、あとは、登下校に親が送迎する姿が多くて残念に思うというご意見がありました。あと、先ほど誇りに思うことで挨拶がすごく良いという意見があつたのですが、今度は逆に挨拶ができないというご意見もありまして、ここは学校ですとか個人の感じ方にもよるのかなと思いましたが、挨拶ができていない、自転車のマナーが悪いというところが出ておりました。それから、もうひとつ残念に思うことは学力の低下があるんじゃないかとか学力の差が学校によってあるんじゃないかという意見が出されておりました。

2つ目の対話の項目は、資料から感じたことを話し合おうということで、提示した資料が花巻市の人口推計と花巻市まち・ひと・しごと創生戦略です。人口減少が進む中でそれを緩やかにして少しでも人口を増やすための取組についての資料でございます。そのほか、現在の児童生徒数の状況、教員配置の状況の資料をお示ししました。それともうひとつが、皆様にも年度当初にお配りしております児童生徒数の推移ということで平成34年までの各学校全ての児童生徒数を表したグラフをお配りしております。それを見て何を感じたか自由にお話ししていただいたわけですが、大きく分けると、人口減少について、それ

から、学級規模ということ、あとは、それ以外ということで大きく3つの観点で意見が出されていたようでございます。

人口減少については、一番多かったのは、少なくなるんだろうなとは思っていたけれどもこんなに減るとは思っていなかったと、予想より減少幅がすごく大きいという意見が一番多かったです。それに伴う意見として、働く場所の確保が必要という意見と、子育て環境を充実していくことが必要ではないかということで意見がさまざまグループで出された状況でございます。

学校規模については、ある程度の学校規模が必要だという意見がございました。その中でも特に、小学校までは規模が小さくても良いかもしれないが、中学校からはクラブ活動のことを考えると規模が大きい方が良いというご意見もございました。また、学校規模を考える際には統合という話が出るけど保護者の立場と地域の立場で考え方が違うことがネックなのかなという意見がございました。

その他として多く出たのが、地域で子どもをどう育てるか、見守るかということ、それから地域で子ども達の世話をどうしていけばいいかということでの意見が多数出ていたところでございます。

2ページをご覧いただきたいと思います。3つ目の対話の項目はありたい学校の姿を考えていこうということで、1つは保護者・子どもの立場からどういう学校だったら良いかということ。もうひとつが、地域の立場だったら学校がどうあればいいだろうということで話し合っていました。

保護者の立場の意見で共通しているものを見ますと、学校は安心安全でいじめのないところであってほしいということ。子ども達が元気で過ごせるということが出されておりました。それから、児童生徒数、学校規模はある程度必要だということと、それに伴う形で部活動の充実が望ましいという意見が出ておりました。それから学校規模に絡んでですが、少人数学級や教育の確保という意見も出ていたところです。

地域の立場として共通で出ていたのは伝統芸能の伝承ですとか、地域行事への参加を子ども達、保護者にしてほしいというのが一番大きい意見だったと思います。それから、学校と地域、地域同士さまざまなつながりの中で子ども達を育てていくことを考えたいというところが大きな意見であったと思います。

ワークショップの進め方等についてご意見を自由記載をいただいた部分につきましては4ページ以降に全て掲載をしておりますので、後でお目通しをいただければと思います。

ファシリテーターをPTA代表の市民の方をお願いした点も非常に話しやすかったという評価だったと思いますし、参加者の負担を軽減するために今回、職員が書記の担当として各グループに入ったことで自分達が話すことに専念できたということも非常に高評価をいただいたのかなと思っています。

2回目以降は2月に実施することで予定しておりますので、今回の内容を踏まえまして更に深堀をしていきたいと思っております。以上、簡単ですが報告とさせていただきます。

○照井善耕委員長 ありがとうございます。それでは、只今の報告について何かご質問等ございましたらお願いします。役重委員。

○役重眞喜子委員 前回、お聞きしておりましたけど資料が手元にないので、ブロックがどの学区なのか最初にご説明いただきたいです。

○岩間裕子教育企画課長 東ブロックが大迫、東和、矢沢。南ブロックが西南、南城。北ブロックが石鳥谷、湯本、宮野目。中央ブロックがそれ以外の中学校区となります。

○役重眞喜子委員 ありがとうございます。

○照井善耕委員長 湯口は中央ブロックだね。

○岩間裕子教育企画課長 はい、そうです。

○役重眞喜子委員 すみません。全体の流れをこの間の資料を読んできればよかったのですが、これは全体で3回でしたっけ。

○岩間裕子教育企画課長 2年間で最低4回です。

○役重眞喜子委員 集まる人達はずっと同じ人に声をかけていくということですか。

○岩間裕子教育企画課長 そうです。2年間を見越して選んでいただきましたので。場合によっては変わられる方もおられるかもしれないのですが2年間ということをお願いしております。

○役重眞喜子委員 そして、最終的に何に持っていくのでしたっけ。

○岩間裕子教育企画課長 現在、再編に関する方針があるんですけども、それを改定することを基本的に考えて、そこに持っていくための意見収集になります。

○役重眞喜子委員 改定するというのは例えば、もう少し具体的にするとかそういうことですか。

○岩間裕子教育企画課長 今、具体的にあるのは複式学級に関する記述しかないもので、それをもう少し小中学校全体とか、更に保育園、幼稚園も含めて大きい形で指針を作りたいと考えております。但し、現在指針がありますので改定という形になるかと思えます。

○役重眞喜子委員 その指針についてはどこかの時点で、現在はこうですけどこれをもっとこうしていきたいとお示しすることになるんですか。

○岩間裕子教育企画課長 このワークショップでの議論もそうですし、そのほかに、昨年度からやっております保育教育環境検討会議の意見も相互に提示する形でもっと議論を深めたいという形で内容をさらに検討するという形になるかと思っております。

○役重眞喜子委員 今回の第1回は何かビジュアライズみたいにしてまとめたんですか。

○市村律教育部長 班で模造紙に書いたものを壁に張り出して、他の班のものも休憩時間に見られるようにしました。それは画像として記録にとっていますので第2回会議の前には、他の地区ではこういう意見も出たという全体のものもお知らせする形で情報は共有したいと思います。

○役重眞喜子委員 わかりました。

○伊藤明子委員 自転車のマナーが悪いと書いておりますけれども、これはどのように改善するというのは考えていらっしゃるのでしょうか。というのも、自転車事故の話聞きまして大変だなと思っておりますので。これはどのように改善するというのは具体的には無かったのでしょうか。

○岩間裕子教育企画課長 この会議の中では改善策という話し合いにはならないのですが

○伊藤明子委員 ただ話を聞いただけという感じで終わっているのですか。今後はどうにかするという事にならなくてもいいのですか。

○岩間裕子教育企画課長 この話し合いの根本はあくまでも、指針の改定に役立てるためということになりますけれども、ここで出された個別の問題、例えば学校からの情報提供が不十分だとか、さまざまな問題が出てきておりますので、それは個別に対応していく必要はあると思っておりますけれども、この会議の中で、対応策について話し合うということは考えておりません。

○伊藤明子委員 問題が出たときにこちらの方で考えるということはないのですか。

○岩間裕子教育企画課長 あります。

○沼田弘二小中学校課長 自転車のマナーにつきましては、年度初めに自転車教室を開いて実地訓練を行っていますし、定期的に指導連絡協議会で生徒指導やマナーも含めて吸い上げて機会をとらえて指導しているところです。

○照井善耕委員長 結局、この中で話が出たから、それをやっていくというよりは、ここに出たもので気になるものは担当のところでやりつつ、これはこれで教育にかかわる方針

を煮詰めていくということだよ。今までの会議の仕方と違うから。広く色んな立場の皆さんから教育に関わる話題を出していただいて全体として教育をどういう方向に持っていくかとやっている。中村委員。

○中村弘樹委員 2月に2回目の会議があるんですけども次のテーマは。

○岩間裕子教育企画課長 第2回については、今回の対話でありたい学校の姿を考えようということでイメージを皆さんに話し合っていたので、今の学校をありたい学校のイメージに近づけていくために、どんなことを取り組んで、どんなことを改善していかなければならないのか。改善するためにはどの取組がほしいのかを、今度は具体的に取組として考えていただくのが2回目のメインテーマということで考えております。そこにいくまでに、言葉として、例えば、小規模校とか地域とかという言葉が出てきたのですが、小規模校のイメージとか地域のイメージとか1人1人違うと思うので、小規模校とはどういう学校なのか、地域とはどういう括りなのかということも少しずつ具体化していく話し合いもしていかなければいけないと考えております。

○中村弘樹委員 それにつながって3回、4回と進んでいくんですね。

○市村律教育部長 来年度は、みんなで考えたありたい学校の姿につなげるために、もうひとつ下げて、保育園、幼稚園がどうあればいいかということ議論していただいて、全体で保育園、幼稚園から小学校、中学校について2年間を通してやると、皆さんが求めている保育環境、教育環境に望まれるものの意見をたくさんいただけるのかなということで、初年度は学校、来年度は保育園・幼稚園の議論を今の時点では考えております。

あと、今回いろいろご意見を出していただいた中で、例えば、わからないのが複式学級。耳では聞いたことがあるけど実際どうしているのか当該校以外でわからないというがあるので、次回はその部分で情報提供も必要なかと思ったところがございます。

委員長さんには2回参加いただいたので所感を交えてお願いします。

○照井善耕委員長 今までのやり方はどうしても事務局で練って、案を作って出して、いかがですか、こんなところはどうしますかとそこで吟味してやる感覚なんだけど。今回、私も2回出ましたけれども、これが最終的にどこに行くのかなっていうのが掴めないんだよね。掴めないからいいのかもしれないと思いながら聞いていました。ただ、すごくいいなと思ったのはコーヒーを飲みながら、お菓子も食べていいですよってね。音楽も鳴っている。そこで花巻の教育はどうなんだとか、学校はどうあればいいんだとか、そういう話をグループで熱を帯びてやっているわけですよ。よく詳しいことはわからないからと言って引く人はいるんだけど、そうじゃなくてああでもないこうでもない、これは知らなかったとか話しながら60代、70代の人と若い人達と一緒にやっている姿そのものもいいなと。できればこれを空き店舗でわいわいやれば何ぼいいんだべなと思いながら見

させていただきました。

ただ、さっき言ったように今まで予想してやってきたのが全然掴めないで、ある部分心配だったり、ある部分わくわく感があったり。気になったのは今日話をしたことは生かしてもらえるんですかとかどうなるんですかとかご要望みたいなのもありましたけれども、どういう形で示すのかなとか思ったりしながら見ていました。個々に見れば気になる部分もあるのですが、例えば学校に関わる情報についても出せる情報出せない情報はあるでしょうけれども、ある会議で学校はもうちょっと地域に情報を出してもいいんじゃないかという意見がありましたという投げかけをして校長先生方にも経営上の参考にしていただくのはすぐにでもできると思いますので、そういうのは並行して進んでいくんじゃないかと思えます。

○役重眞喜子委員 私も行きたくて、どこにも日程が合わなくて行かれなかったのですが、次回、日程が合えば行きたいと思えます。

ワークショップというのは今まで無かった手法なので、来た人が聞いて帰る、そして声の大きい人がしゃべってというパターンではないということで、たくさんの方が思いを吐き出すのに最適な手法なんですね。それに取り組んでいるということは第1回はすごく良かったんじゃないかなと思えます。

私も実は今、コミュニティ会議の見直しということで市内4地区にそれぞれ4回ずつ入らなければいけなくて毎晩という感じなんですけれども、やはり4回やっていくと1回目はとっても良くて。同じ進め方なんですけれども1回目はとにかく問いかけをしてそれに対して出してもらって、2回目はそれに対してどういう課題解決があるかということで、それも知恵を出してもらおう。3回目、4回目ぐらいで方向性としてまとめていきたいと思いますということなんですけれども。それで、ワークショップが3回目、4回目ぐらいになると、今委員長さんがおっしゃったように、出すには出したけれども一体どこに向かっていくんだろう。最終回になって話すばかり話して俺たち何だったんだとかいう人も出てきて、それは最初に説明したよねと言っても、それはなかなか納得してもらえないということもあったりして。でも進める中で塩梅が事務局に伝わって多分良い方向に持っていられるんだろうなと思えますけれども、最終的にある程度色々な意見が出てきた良かったということではない部分はどうしたって、例えば、こういう学校でありたいといったときに部活もいっぱいできて、親も送迎しなくて良いような学校で、地域ともいったら、そんな学校、花巻では現実としてできないとなるので、そこが、1個川を渡らなければいけないというのがワークショップの場合どうしてもあるので、そこら辺も適宜情報を共有させていただきながら一緒にできれば良いなと思えます。期待しております。

○照井善耕委員長 進め方に約束があるわけですよ。批判しないとか、1人でしゃべりすぎないとか。約束に基づいてどんどんアイデアを出していく中で、我々はどうしても現実と検討をしながら本当は意見を言っていて、こんなことを言ってもなあと自分で塞いでしまう傾向があるんですよ。それをやらないでとにかくアイデアをどんどん出ししょうとやることの良いところは今まで思いつかないことがどんどん出てくるんだけど、

問題は最終的にどう持っていくかで、アイデアはいっぱい出したけれども現実的に検討したら結局は同じになってしまったとなってしまう。

最終的に自分の要望をどう実現するかという発想でいくと結局そういうことになってしまふんだよね。だからそうじゃなくて最終的には自己決定。今まで色んな意見を出して自分の考えも吟味した時に現状が見えたとき、じゃあ自分はどうかという主体を自分においておかないと、これが要望のための話し合いで終わってしまうと最後が大変。

あなたはどうかという「YOU」を主語にして物事を考えないで、最終的には「I」だ、私がどうか。自己決定をするために現状をしっかりと捉えなければならない。その現状を捉えるために人の発想もおおいに取り込みながら検討しようという辺りだと思うんだよね。だから、自分が今日話したことに「答える」ことを求めてしまうと、なんだとなるから、同じこたえるでも「応える」のやり取りをしながら、最後は自分が思っていることを心掛けていかないと、やればやるほど最後の結論の出し方が難しいなと思いつつながら。

○岩間裕子教育企画課長 今委員長がおっしゃったとおりのことで、やはりワークショップを行って最終的に練り上げていく時の基本は、主語が「I」でやること。私が何ができるかを最終的にまとめていかないと失敗するというのはそのとおりで、そこに向けて徐々に積み上げていくことが大事だということは最初の段階で確認はしているので、そこに向けていきたいと思っていました。

○照井善耕委員長 自己決定の大切さが言われる中で、発想を変えないまま自分のことなんだから自分で決めなさいということだけで自己決定にもっていくと不安になるんですよ。意見の中でメリットやデメリット、リスクなど内容を吟味し尽くしたうえでこれ以上不安要素がない。突き詰めるところまで突き詰めた、そこで最後は自分で結論を出しましょうという意味の自己決定だと安心して出せるんですよ。結果、失敗してもあの時色々考えて出した結論だよね。それでも失敗したのは何がうまくなかったんだろうと、そこでまた検討すれば、またチャレンジしようかという持っていく方ができるんだけど、それが中途半端で自分のことなんだから最終的には自分で決めなさいと吟味しないまま放られると不満がいっぱいになる。

方向としては良いと思うよ。今までのものは声の大きい人が俺について来いみたいなことでやってきたので、みんなで協力して、色んな思いに耳を傾けながら吟味して吟味して、最後は多数決で結論を出す。但し、失敗した時はもう1回みんなで集まって検討するとかそういうことなんじゃないかなと思っていました。

事務局ではこの反応をみながら、予想した形、あるいはこれを踏まえれば次の持っていく方について思い描いていたとおりにいきそうだとかという感じですか。

○岩間裕子教育企画課長 結構、キーワードになる言葉は出てきたと思います。そこを深堀することで進められるのかなと思っています。全く意図していないまちづくりの方向にだけに進んでしまうことも危惧していたんですけども、結構教育の分野で意見を出していただけたので、そちらに全面的に流れることなく教育の部分で出てきたことを深堀して

いくことで説明をして、次に入って行けるかなと思っていました。

○佐藤勝教育長 4つの地域の地域性が出てきていますよね。それから、保護者の方の視点というのが率直で、それもだいぶ共通性がある。今までPTA同士の交流はないようで、それぞれで個性的な取り組みとか、とても良いことをやっているのですが、情報交換も多分色々あったんだろうなということで、これからPTAをやるうえでのもの、視野も広がっているんじゃないかなという気がします。

○照井善耕委員長 中央ブロックの最も印象に残ったことの最初に「学校は地区で考えるもの」という常識を破ったこと」ってあるね。

○役重眞喜子委員 これは1テーブルはどのような編成でやったんですか。

○岩間裕子教育企画課長 PTAも幼稚園保育園の保護者もコミュニティも入る形で、1テーブル基本5人です。

○佐藤勝教育長 意見の中で、次はまた違ったメンバーでやってみたいという意見もありました。

○伊藤明子委員 学校間の交流がないって書いているからいいかもしれませんよね。

○役重眞喜子委員 これが、例えば総合計画とか教育基本計画みたいな部分だと色んなところに反映させていけるんだけど、やっぱり学校再編というところに焦点を当てていくと、かなり飛び越える幅があるだろうなということなので。せっかくやっているのだから学校再編に関わりなくしゃべりたい人も当然いるし、そういうものは次の教育基本計画のデータとして大事にとっておくということもあると思うので、そういうふうにしたらいいのかなと思いますね。なかなかこれでじゃあ立派な再編指針になるかということ、ならないとしても成果があると思うので。

○岩間裕子教育企画課長 こういう学校を望んでいるという理想の学校の姿というものも明確になってくるとそれ以降の教育の施策についても考える基本になってくるので。

○役重眞喜子委員 それも、理想とする学校の姿はなんぼでも描けるんだけど、こういう条件でこういう子どもの数でという箍（たが）を嵌めた部分で議論していただくということですよ。

○佐藤勝教育長 児童生徒数の推移はおそらく初めて出たので、おそらくみなさん現実というのは基本的に理解されて、そのうえでの話し合いですから、それは一面はあったのかなと思いました。

○伊藤明子委員 人数が少ないため地域活動ができないというのがありますからね。現実的にわかっているところと全く分からないところがあると。ただ、学校同士いろんなところとお話しができたというのがよかったんじゃないでしょうかね。

あと、私たちが考えるのと実際、今の親御さん達が考えるのとは差はあると思うんですね。そこら辺の差をいくらかでも縮めていってなるべく同化するようにして持っていくという形だといいいのかなと思ったりしました。

○役重眞喜子委員 ワークショップの進め方として、考え方ですけれども、よくやる手としては2回目、3回目になるとテーマがだいたい見えてくる。そうすると自分の語りたいテーマというふうにグループ編成して入っていただくと色々出てくるので、特にクラブ活動とかクラブ活動に伴う区域外就学の問題とかそういうのは非常に関心のあるものだと思うので、そういう進め方もあるかなと思います。

○照井善耕委員長 あとはどう持っていくか。今まであまり教育のことを話したことがなかったものね。

○伊藤明子委員 すごくいいことだと思います。

○役重眞喜子委員 各テーブルのファシリテーターは職員の方ですか。

○岩間裕子教育企画課長 各テーブルの進行はそこから選んでいただきました。1、2人の方からは進行役も市でやってくれたらよかったなという意見もありましたけれども、今回は書記に入っている職員もサポートする形で進めたのでその部分について負担を訴えた意見はなかったです。

○役重眞喜子委員 では、必ず各テーブルに職員が入った形ですね。それはやっぱり必要ですよ。

○照井善耕委員長 保育を語る場で音楽が流れるというのは、本当はそうでなければならないよねえ。本来は子どもを語るとか、活動を語るとか、皆で楽しく、おじいちゃんおばあちゃんも入って、そういう話があちこちで必要なんじゃないかな。ありがとうございました。

ほかになればこの報告を終わります。ほかになにか報告事項はございますか。

それでは、以上をもちまして本日の教育委員会議を閉会といたします。